［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4272200132
法人名	有限会社　グループホーム天意
事業所名	グループホーム　天意
所在地 （電話番号）	長崎県五島市大荒町1310番地12 （電　話）0959－75－0177

評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】（平成19年4月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年12月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　4人，非常勤　5人，常勤換算　3人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1 階建ての　1 階　～　1 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	12,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円			

（4）利用者の概要

利用者人数	9　名	男性	1　名	女性	8　名
要介護1	2　名	要介護2	5　名		
要介護3	2　名	要介護4	0　名		
要介護5	0　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	86　歳	最低	81　歳	最高	92　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	虎島医院、大坪歯科医院、佐々木歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年介護に携わってきた施設長が、家族とのつながりを大切にしながら、地域の中で本人の持つ力を発揮し、以前に暮らしていた生活を同じように続けて頂く事をお手伝いしたいという願いと、職員の「笑顔と元気」があれば、その想いは必ず通じると考えて市街地から少し離れた林や畑が点在する、施設長の自宅横に開設されたホームである。広い敷地内には宅老所が隣接され、利用者との交流も盛んで、菜園ができるよう耕地が整備され入居者と一緒に芋などの作物を植える予定である。施設長は地元の方で地域の方ともなじみが深く親しまれており、地域からの入居者も多く住み慣れた馴染みの環境で、昼間に自宅に短時間帰られる方もおられたり、入居者の生活背景や生活習慣を踏まえ更に環境を整え、その人らしく暮らしていけるように支援しようと取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

入居者主体の介護計画が立てられるよう、日々の会話の中から思いや意向を把握し、定期的なな会議の時に意見を出し合い職員の気付きを盛り込み共有している。来訪時に入居者・家族と話し合ったり、電話でお聞きしたりしながら、意見を計画に反映出来るよう取り組みを行っている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者は自分達が実施しているケアの意味に気付き理解につなげられる事を職員に伝え、各職員に解る範囲で自分の意見や評価を書いて貰い、施設長・管理者・職員で話し合いまとめる中で、評価の目的の理解や目指す方向性の確認、ケアに対する自信につながりつつある。前回外部評価結果に基づき、改善策を検討し全職員で取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月毎に定期開催しホームの活動状況や行事報告、前回外部評価結果の報告を行っている。ゴミ拾いや“天意新聞”の回覧についてご意見を頂き、散歩時の空き缶拾いを始めたり季刊誌として地域に新聞の配布を行っている。管理者が介護保険の更新手続きや、定期的に“天意新聞”や行事の案内を持って市窓口に伺っている。市担当者に中学生の職場体験学習についての連絡をどのようにすれば良いのか相談したり、解らない事を聞きに行き助言を頂いている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

日々の暮らしや健康状態等、お支払いの時にお話ししたり面会時にお伝えし、遠方の方には近況報告の手紙をお送りしている。年4回の“天意新聞”をお送りしているが、職員の異動を含めもっと身近な便りを考えている。幅広くご意見を頂く為に公的な相談窓口をホーム内に掲示し、ご意見箱の設置や介護計画を自宅にお持ちした時に「何かお困りの事はないですか」と繰り返し尋ねている。普段からご家族との関係をより密接にし何でも話せる雰囲気作りに更に取り組みたいと考えている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

福江祭りや市の運動会、小・中学校の陸上大会や文化祭の展示会の見学、バザーでの買物等を楽しみに出掛けている。月に1～2回地元のゲートボールを見学や参加したり、ホームからコーヒーの差し入れや果物をお返しに頂いたり、地域の方とお話しする機会も得られており、ホームの敬老会に来て頂いたりしている。散歩の際に入居者と一緒に空き缶やゴミ拾いを行う等、地域の一員としての活動をしている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	永年介護に携わってきた施設長が家族とのつながりを大切にしながら「地域の中で本人の持つ力を発揮し、以前に暮らしていた生活を同じように続けて頂きたい」という願いと、入居者と接する時「笑顔と元気」を大事にしていれば、その想いは必ず通じると考えてH.16.12.の開設時に、理念の中に盛り込んで作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	H.19.5.から申し送り時に理念の唱和を行い一日の始まりとして、ケアの在り方を自分に言い聞かせるように心に刻み、常に意識できるように取り組んでいる。月2回の会議の中でケアの場面を、理念に照らし合わせながら振り返りや拠り所にしたり、理念を実践する為にどうすれば良いのかを考えると共に、入居者の行動を見て自分達のケアを評価している。理念の唱和を始めた事で職員同士のつながりを強める事にもつながっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福江祭りや市の運動会、小・中学校の陸上大会や文化祭の展示会の見学、バザーでの買物等を楽しみに出掛けている。月に1～2回地元のゲートボールを見学や参加したり、ホームからコーヒーの差し入れや果物をお返しに頂いたり、地域の方とお話しする機会も得られており、ホームの敬老会に来て頂いたりしている。散歩の際に入居者と一緒に空き缶やゴミ拾いを行う等、地域の一員としての活動をしている。	○	保育園や小学校との交流やバーベキュー、バザーや餅つき大会、夏祭り等ホーム行事の計画や、中学生の職場体験の受け入れの働きかけを検討中である。回覧板を回す際に入居者と共に伺ったりする事で、地域の方が自然にホームに来て頂けるようにしていきたいと考えており、今後更に地域との交流が深められる事に期待していきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価をする事によって、地域を意識する事や連携について職員其々が疑問に思っていた事や、自分達が実施しているケアの意味に気付き理解につなげられると職員に伝え、項目の説明を行い各職員に解る範囲で自分の意見や評価を書いて貰い、施設長・管理者・職員で話し合いまとめる中で、評価の目的の理解や目指す方向性の確認、ケアに対する自信につながりつつある。前回外部評価結果に基づき、改善策を検討し全職員で取り組んでいる。	○	評価の意義や活用方法について、今回の取り組みを基に深く理解し、職員自身がケアの根拠を意識しながら、更にホームや地域の中の“天意の住人”の一人としての取り組みを考えており今後に期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、町内会長、市職員の参加を頂き2ヶ月毎に定期開催されており、ホームの活動状況や行事報告、前回外部評価結果の報告を行っている。ゴミ拾いについてや“天意新聞”の地区町内の回覧等のご意見を頂き、散歩時に空き缶拾いを行ったり季刊誌として配布を行っている。次回開催日は月初めに市の担当者と相談し日程を決めて、管理者が案内状を持って行き議題についてご意見をお聞きしたり、家族へ郵送や電話、来訪時に声をかけお願いしている。	○	入居者や地域の方に出席して頂く為には、どのようにすれば参加が可能になるか、会議の開催方法や時間について職員と話し合われると共に、議事録としての記録方法や発言者の記名、地域の方にホームを理解して頂く為の会議の内容等、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が介護保険の更新手続きや、定期的に“天意新聞”や行事の案内を持って市窓口に伺っている。市担当者に中学生の職場体験学習についての連絡をどのようにすれば良いのか相談したり、解らない事を聞きに行き助言を頂いている。	○	施設長は地域に貢献できる事や、地域の方に“元気で自分らしく”いて頂く為に、ホームとして出来る事等を市に相談しながら取り組んでいきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしや健康状態や金銭出納帳について、お支払いの時にお話ししたり面会時にお伝えし、遠方の方には管理者から近況報告の手紙や、入居者が書かれた手紙を請求書と一緒にお送りしている。年に4回“天意新聞”が発行されお送りしているが、職員の異動を含めもっと身近な便りを作りたいと考えている。	○	行事の時や日頃の様子の写真をもっと多く掲載する等、職員手作りの新聞発行を検討中で、定期的に紙面による近況報告を行い、アルバムのように思い出として残せるよう、年1回から始め徐々に回数を増やしていきたいと考えており、この取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望が書き易いような書式を作って、ご意見箱と一緒に玄関横に設置しているが、ご意見等は特になく家族の面会時や、介護計画を自宅にお持ちした時に「何かお困りの事はないですか」と、繰り返し尋ねご意見を頂けるように努めている。入居時に公的な相談窓口や第三者委員を説明し、ホーム内に掲示すると共にご意見を頂いた時は、推進会議等に諮り対応策の助言を受けるようにしている。	○	何でも話せる、話しやすい雰囲気作りや、家族との関係をより密接にしていく事で、活発なご意見を頂き運営に反映していきたいと考えており、更なる取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動はないが適性等に応じ、法人内異動は行われている。馴染みの関係を大切にし、職員の離職を防ぐ為に休みの希望に極力応じたり、管理者が悩みや相談を受け「辛い事は6人で分け合い、嬉しい事も独り占めしないで皆で一緒に喜んで」と、常に1人で抱え込まないで仲間と共に進めば、乗り越えられると励ましあっている。勉強会の後に食事会を年に数回行ったり親睦の場を設けている。新規職員には管理者が一緒に勤務し、ケアのポイントや情報提供を行い十分指導を行っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市等主催の研修会等は必要に応じ適性を考えて人選し、出来る限り全員が参加できるように配慮している。月2回の会議の時に定期的に内部研修を行ったり、外部研修の伝達を行ったり資料を提示・回覧している。資格取得に為に必要な勉強方法について職員に伝えているが、職員個々の経験・習熟度・適正を考慮した研修について、施設長・管理者が話し合っているが計画作成には至っていない。	○	スキルアップや希望を基に職員個々の目標を明確にし、段階的に力をつけていけるよう、経年別研修等の検討を始めたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	五島市グループホーム連絡協議会に管理者が参加し、介護支援専門員連絡協議会の事例検討会や、合同の研修会に計画作成担当者と共に参加し、情報交換や電話等で日常的な相談を行ったりし、交流を深めているが職員の参加や相互訪問や見学迄はされていない。	○	今後相互訪問や見学を通じて新たな視点や、ケアについての学びを深めたり、ホーム内で介護教室を開催していきたいと考えており、積極的な交流・連携作りへの取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にケアマネジャーや職員が自宅にお伺いしたり、病院に様子を見に行ったり家族の方とお話ししながら、家族と一緒に体験されたり何度か見学に来られたりしながら入居して頂いている。納得・安心して入居できるよう配慮し、ホームに徐々に馴染んで頂けるよう、行きつけにしていた店に行ったり、気が紛れるよう声をかけたり、ご希望で「兄ちゃん」とお呼びしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話や買い物、家事をする中で生活の知恵や風習、五島の精進料理“おつぼ”を教えて頂いたり、酢物や混ぜ御飯のコツを伝授して頂く事も多い。ユーモア溢れる会話で楽しませて頂いたり「頑張らんといかんよ、若い時は色々ある、自分もそうだった」と励まして頂き、明日も頑張ろうという気持ちになっている。ケアの後「ありがとう」と感謝の言葉や、夜勤明けに玄関先で手を振って「明日も来てね、待ってるよ」と、一緒に過ごし共に支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	淋しそうな顔をしている時に居室で一緒に話したり、好きな事をされている時にお聞きしたりしながら、裁縫の得意な方に雑巾縫いを薦めたがされず、布に花模様を書き色糸で縫って頂いたり、職員が野菜を植えていると「もう出来ない」と言われていた方が自分でされたり、ゲートボール見学に行って得意だった事が分かったり、俳句を作って貰って居室やホールに貼ったりして、望む暮らしや意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族と話し合い気付いた事をお聞きしながら、計画に反映させ全職員で話し合って作成している。入居者の状況や思い、習慣を踏まえて『その人らしく暮らし続ける』為の、具体的な課題・目標になっているが『地域で暮らす』という視点が盛り込まれていない方もいる。ケアの方法や留意点を統一する為に、現在行われているケアをすべて計画に記載されている状況ではない。	○	全ての入居者の状況に応じて『地域で暮らす』視点を目標の中に盛り込むと共に、現在行われているケアを手順書の作成等、今後の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しを行い、入居者・家族の要望や状況の変化が生じた場合や、新たな気付きや意見があった場合等、臨機応変に計画の見直しを行っている。月2回の会議で要望や状態に変化がない入居者についても、毎月検討を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設長が看護師で入居者の健康状態について相談したり、必要に応じて協力医療機関から往診してくださる所もあり、24時間の相談体制はできている。入院時はお見舞いに伺ったり医師と相談したり、情報交換を行いながら早期退院につなげ、安心して暮らせるよう支援している。お墓参りや回忌法要の送迎、家族が通院介助される時の送迎や馴染みの美容室、洋品店、スーパーへ買い物にお連れしたり、自宅に居る時と変わらない暮らしが送れるよう支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の医療機関をお聞きし、以前からのかかりつけ医で受療して頂いたり、納得の上協力医療機関に替わられる方もおられる。職員が通院介助を行い予め医師に入居者の状況報告をしたり、かかりつけ医に何時でも相談できる。受診結果は変化がなくても家族に報告し、家族が受診介助される時も職員が同行し、結果をお聞きして把握し適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、他の施設や事業所に変わって頂く事について、入居時に説明し同意を頂いている。常に医療的なケアが必要になった時や、ホームの浴槽での入浴が困難になった時等、その都度家族と話し合いながら対応を決めている。急変時の対応について全入居者の家族と話し合っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が馴染まれている為ニックネームでお呼びしたり、方言や喜ばせたいという思いから冗談を言う事もあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。排泄介助や誘導の際に入居者の自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく行うように心がけている。個人情報保護法の理解は出来ているが、個人情報が書かれたメモ紙等は最終的に必ず焼却処分されるが、つい丸めてポケットに入れてしまう事がある。	○	常に入居者に対する尊敬の念を持ち言葉かけを行っていきたいと考えており、気になる時にお互いに注し合い意識付けを行う事や、個人情報が書かれたメモの一時処理の際も手で千切る等、情報の漏えい防止に努められる事に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食後のゆっくりした時間に「何をしたいですか」と伺い、ご希望やペースに合わせてドライブや散歩や花摘み等に出掛けたり、ご希望を言われない方も、表情や全身の反応を注意深く観察しながら、希望や好みを把握するようにし手作業を薦めたしている。生活のリズムが取れるよう声かけ・誘導は行うが、無理強いはせずペースに合わせたり、状況に応じて皆で一緒にレクレーションをする事もある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり団子を丸めたり、味見、下膳や食器洗い・片付け、テーブル拭きやお茶を入れて頂いたり、食事が出来上がった時に歩行訓練を兼ね、お知らせして頂いている。職員も一緒の食卓で必要な介助を行いながら楽しい雰囲気作りや、つわ採りや菜園で採れた物、旬の食材を採り入れ、五島うどん・きびなの入り焼き等の郷土料理や家庭料理のバイキングを食べに行ったり、戸外のウッドデッキでお茶や昼食を摂ったり、食事を楽しめるよう工夫している。	○	そば打ち、うどん麺つくり等を取り入れ、入居者が出来る事に力を発揮して頂き、更に食事を楽しめる支援を考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯や回数をある程度決めているが、希望に合わせて対応可能であり、ゆっくり入りたい方は16時頃にしたり、体調に配慮しながら湯加減や順番、菖蒲湯・ゆず湯も楽しめるよう工夫している。入浴介助を嫌がられる方の家族に協力を頂いた事をきっかけに、入居者の「人の世話にはなりたくない」という思いを知り、その思いを大事にしている。洗髪をされない方は家族の方にお願し、その後は洗髪が出来るようになり、安心して入浴して頂けるよう工夫をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事や裁縫、洗濯物たたみや好きな家事を手伝って頂いたり、新聞紙のごみ袋作りや散歩時の空き缶拾い等の役割を持って頂き、力が発揮出来るようにしている。テレビの歌謡番組を楽しまれたり一緒に歌ったり、得意だったゲートボールを見に行ったり参加したり、花作りや一緒に花を見に行き楽しみ事を持って頂き、生活歴・趣味・得意な事を活かして暮らせるよう積極的に取り組んでいる。	○	生活背景を基に昔されていた事を思い出し、楽しみとして出来るよう畑作り等を考えており、今後の更なる取り組みに期待ていきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前からの行きつけの美容室やスーパーにお買い物、お墓参りに行ったり今迄の生活の継続として、外出が出来るよう支援を続けている。職員の小学生の子供の音楽祭や運動会に一緒に行ったり、子供が入居者に会いたがって、職員が休みの日にも子供と一緒にホームへ来て家族の様に過ごしている。気分転換や五感刺激のために戸外で過ごして頂く機会を積極的に作っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21:00～6:00迄は防犯上の施錠を行っている以外は、玄関等自由に出入りできるようになっている。入居前からの習慣で、出入り後に必ずサッシの鍵を掛けられる方がいるが、職員が気付けて鍵を開けるようにしている。入居者の落ち着かれない時間帯を把握し、見守りを強化したり作業する場所や向きを工夫したり、職員同士が声をかけ合ったり、一人で外出された際も、ご近所の方に見守りや連絡の協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して年に2回、入居者、全職員、消防署と避難訓練を行い、消火器を使った消火の実施訓練を行っており、地域の方に訓練の参加をお願いしているが、参加には至っていない。災害時にホーム外へ避難した入居者の見守りを、隣保班の方に協力の依頼を行っている。災害に備えた備品は特に準備されていない。	○	訓練のお知らせを口頭で行うだけでなく、回覧板で回す事を検討中である。備蓄品についても想定される災害を踏まえ、必要な物・量について職員や施設長と相談され、取り組んでいかれる事に期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせて肉を魚にする等の食材の変更や、盛り付けを工夫したり飲み物の種類を選べるようにしている。食事摂取量・飲水量を把握・記録しており、調理経験のある職員を中心に話し合いながら、バランスを考えた献立を作り、定期的な体重測定・血液検査結果に基づき、医師の助言に従い対応し、カロリーの過不足や栄養の偏りがないよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を居間に飾ったり、時計や暦を見やすい位置に掛けてあり、明るい太陽の陽射しは夏はアサガオで調節され、冬はコタツを居間に置き心安らぐ雰囲気を出している。テレビや音楽の音が大きすぎて不快に感じないよう心がげて調節したり、窓を開け換気に努めエアコンに頼らず温度調節を細めに行い、包丁で刻む音や御飯が炊けたり料理の匂い等、家庭の中の寛ぎの空間になっている。浴室では入浴剤の香りを楽しんで頂いたり、トイレのドアの開閉に気をつけ清々しく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に大切にされていたタンスやぬいぐるみ等、馴染みの物を持って来て頂き家族と一緒に、使いやすく居心地良く過ごせるように模様替えをして頂いている。持ち込みの品があまり多くない方は、好みの色や趣味を活かした家庭的な雰囲気作りを、入居者と職員で一緒に行ったり支援を続け、馴染みの物を持って来て頂くよう家族に声を掛けている。		